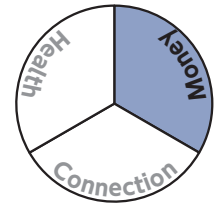


各国の主要政治・経済イベント予定 (9月4日時点)



10月の各国主要政治・経済イベント

	日本	米国	グローバル
上旬	9月日銀短観(1日)	9月ISM製造業景況指数(1日) 9月ISM非製造業景況指数(3日) 9月雇用統計(4日)	(中)国慶節(1-7日)
中旬	9月貿易統計(17日) 9月消費者物価指数(18日)	9月消費者物価指数(10日) 9月小売売上高(17日)	(中)9月貿易統計(14日) (欧)ECB理事会(17日) (中)7-9月期GDP速報(18日) IMF世界経済見通し
下旬	金融政策決定会合(30-31日) 9月鉱工業指数(31日)	7-9月期GDP速報(30日) 9月個人消費・所得(31日)	G20財務相・中央銀行総裁会合(24日) (欧)7-9月期GDP速報(30日)

(注)作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。

10月の政治・経済イベント「貿易統計(日本)」

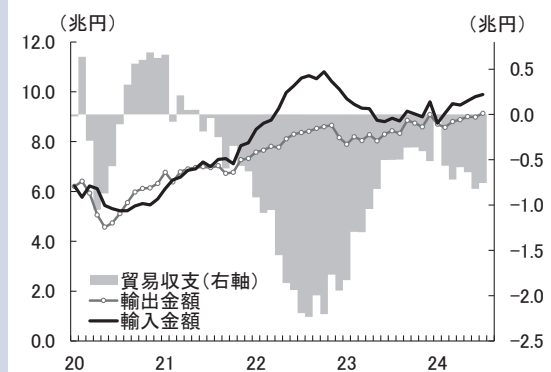
貿易統計とは、財務省が公表している、日本の輸出入の動向を把握するための統計です。税関への輸出入申告などに基づいて毎月作成されており、品目別、地域(国)別に金額や数量のデータが速報値として翌月中～下旬に公表されます。営業日数等による統計の振れが大きい点には留意が必要となりますが、詳細にモノの対外取引を把握できる重要な統計です。

そのほか、貿易統計を利用して日本銀行が作成、公表している「実質輸出入」も、輸出入動向を把握するために用いられます。実質輸出入は、輸出金額、輸入金額をそれぞれ輸出物価、輸入物価で調整し、為替相場やエネルギー価格の上昇といった物価変動の影響を除いたもので、輸出入の実勢を判断するために有用です。

日本の貿易収支は、22年以降一貫して赤字基調が続いています。日本はエネルギーのほとんどを輸入に頼っている国であることから、22年は世界的な原油価格の高騰が輸入物価を押し上げ、輸入金額が輸出金額を上回ることによって貿易赤字が拡大しました。23年以降は、原油高の一服によって輸入の伸びも鈍化しましたが、欧米諸国による金融引き締め政策や中国経済の低迷といった海外経済の減速感が強まる中、日本も主力の機械類を中心に輸出が伸び悩み、足元でも赤字基調が続いています。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

貿易収支(季節調整値)



(出所)財務省